



後水尾院點削類聚
乾

4
2146



百山之月

柳花 初秋云 秋月 弦月 久云

花空 七月 秋月 花毫 空云 占守清

柳花 空云 花毫 秋月 空云

郭公通 夏空流 六月夜 见云 夜云

空云 秋月 恨云

空文之二月 秋月 海空 契空

空文 秋月 空云

空文 秋月 空云 寄水空

空文 秋月 空云 红紫残梢 夕满映空

明治二十一年四月三日



九月廿一

垣根桂 水月 夜梅空 逸空 漏海空

二月廿一

春山夜 夏月凉 浅芽空 晓空 寄水雅

三月廿一

月前空 秋月 岁暮梅 寄空 各所松

宣文二月廿一

海空 秋月 空云 空云 恨云 空家 海空 空云

二月廿一

空山 空云 空云 空云 空云 空云 空云 空云

二月廿一

见空空 惜春空 报空空

利4
2/46

下

明治二十一年四月二十四日
藤野野矢

藤野野矢

九月廿下
垣根桂 水月 夜梅 夜 逐夜 漏海 夜

二月廿下
春山 夜 夏月 凉 浅芽 夜 晓子 寄水 雅

三月廿下
月前 雪 西亭 将 岁暮 梅 寄笔 夜 各所 松

宣文二月廿下
海之 夜 心 残 雪 虫 冰 夜

同廿下
秋梅 去 西 河 原 见 花 香 去 虫 夜 恨 夜 心 家 海 边 祝 言

同廿下
山 夜 夜 羊 年 雪 心 静 梅 浦 春 月 西 乃 是 在 见 花 惜 为 花 心 欲 寒

去 心 田 香 去 燕 宜 汝 静 浪 舟 旅 者 友 海 晓 心 号 汗 流

二月廿下
见 花 香 友 惜 春 月 记 报 春 意 音

同
解之月 柳靡風 夕網系 玉色落 金掃衣 雨之

忠渡急 恬分急 雅石風 名不社

月
達心動搖 曉開郭云 取波梅急

主春 海色原 去雲 竹香 世名葉 梅風 柳衣 去白 春月

陽尸 禁中紀 心花 夜上原 色 里欽等 此夜 柳心骨 柳心骨

皇同勢 心骨 世名葉 以雲 玄吃月 夕名 水色胸原 杜蜂

初秋湖 七夕 世名葉 庭蕨風 飛床 夕名 音中初 二月

月 水骨 心骨 我年 秋香 松心骨 春海 渡堂所 白

云原 松心 冬月 春名葉 以雲 回水 古教凡 嘉 榮香

万法三年四月廿八日

柳影

藤野深氏遺愛之記

湖白堂

はるのこゝろしとて世を病のふくまふははるのこゝろしとて

雅直研石

刻風之くわんをくわんも抑れいとくわんをくわんも抑れ

資

ゆらぎるは風六坊でくわんの玉のをいづくも抑れ

弘

とて病乃をくわんをくわんも抑れいとくわんをくわんも抑れ

通

流は能くく増つてきぬ川もさういふ^て川もさういふ^て

きくく流は能くく増つてきぬ川もさういふ^て

流

おまも^{あま}も^い流は能くく増つてきぬ川もさういふ^て

通

おまも^{あま}も^い流は能くく増つてきぬ川もさういふ^て

弘

おまも^{あま}も^い流は能くく増つてきぬ川もさういふ^て

喬

おまも^{あま}も^い流は能くく増つてきぬ川もさういふ^て

雅直相伝

おまも^{あま}も^い流は能くく増つてきぬ川もさういふ^て

資

おまも^{あま}も^い流は能くく増つてきぬ川もさういふ^て

疾電

おまも^{あま}も^い流は能くく増つてきぬ川もさういふ^て

弘

おまも^{あま}も^い流は能くく増つてきぬ川もさういふ^て

直

かゝるにむねをたてしむる人煙もよるにむねをたてしむる

奇

そのまはたしむるにむねをたてしむるにむねをたてしむる

通

いふにむねをたてしむるにむねをたてしむるにむねをたてしむる

奇

いふにむねをたてしむるにむねをたてしむるにむねをたてしむる

愛世

あすのむねをたてしむるにむねをたてしむるにむねをたてしむる

奇

あすのむねをたてしむるにむねをたてしむるにむねをたてしむる

弘

あすのむねをたてしむるにむねをたてしむるにむねをたてしむる

直

あすのむねをたてしむるにむねをたてしむるにむねをたてしむる

通

あすのむねをたてしむるにむねをたてしむるにむねをたてしむる

日地新入絶を

あすのむねをたてしむるにむねをたてしむるにむねをたてしむる

古寺傳

日地新入絶を

通名 一七
 雅直卿下 一七
 伯之位 二七
 日形新太師也 一七
 見辨太師也 一七

御製 二首

今更
 御製
 御製

御製
 御製

資

御製
 御製

喬

御製
 御製

玉

御製
 御製

通

御製
 御製
 御製

とる候
いしむるに
いしむるに

いしむるに
いしむるに

いしむるに
いしむるに

いしむるに
いしむるに

いしむるに
いしむるに

五月十日

梅風

弘

梅風弘
梅風弘

梅風弘
梅風弘

通

梅風弘
梅風弘

賢

梅風弘
梅風弘

直

梅風弘
梅風弘

花

花の香は遠くまで届く

直

花の香は遠くまで届く

直

花の香は遠くまで届く

直

花の香は遠くまで届く

直

花の香は遠くまで届く

花の香

花の香は遠くまで届く

浦

花の香は遠くまで届く

直

花の香は遠くまで届く

香

花の香は遠くまで届く

直

花の香は遠くまで届く

あつたてのついでに
あつたてのついでに
あつたてのついでに
あつたてのついでに

侍

日野大納言

日野新大納言

中流中納言

白川三位

雅直

あつたてのついでに
あつたてのついでに
あつたてのついでに
あつたてのついでに

直

あつたてのついでに
あつたてのついでに
あつたてのついでに
あつたてのついでに

直

あつたてのついでに
あつたてのついでに
あつたてのついでに
あつたてのついでに

直

あつたてのついでに
あつたてのついでに
あつたてのついでに
あつたてのついでに

直

あつたてのついでに
あつたてのついでに
あつたてのついでに
あつたてのついでに

直

あつたて

あつたて

郭公通

日野新八納言

いふことごとくや六月の常々新八のあはれ様とて

世

よびておぼしめしおぼしめしおぼしめしおぼしめし

おぼしめしおぼしめしおぼしめしおぼしめし

通

このおぼしめしおぼしめしおぼしめしおぼしめし

直

み視るものおぼしめしおぼしめしおぼしめし

喬

おぼしめしおぼしめしおぼしめしおぼしめし

弘

おぼしめしおぼしめしおぼしめしおぼしめし

夏原滋

おぼしめしおぼしめしおぼしめしおぼしめし

喬

おぼしめしおぼしめしおぼしめしおぼしめし

源中納言

おぼしめしおぼしめしおぼしめしおぼしめし

照

上... 林の花よりたれなま

弘

高... たるま

直

... たるま

資

人の世... たるま

六月

日野新八地言

... たるま

通

後... たるま

照

... たるま

... たるま

... たるま

... たるま

白
...

被忘意
...

...

...

...

源中地言

...

直

...

...

Handwritten Japanese text in cursive style, consisting of two vertical columns of characters.

弘安

伯三位

源中納言

日野新大納言

監之院文

作製

二首

二首

二首

二首

二首

Small rectangular label with handwritten text, likely a collector's or library's mark.

Handwritten Japanese text in cursive style, starting with a large character '夕'.

題

Handwritten Japanese text in cursive style, continuing the poem.

八

Handwritten Japanese text in cursive style, continuing the poem.

笑

Handwritten Japanese text in cursive style, continuing the poem.

雅直相傳

Handwritten Japanese text in cursive style, continuing the poem.

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document. The text is written in a fluid, connected style across several lines.

For

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a fluid, connected style across several lines.

日

Handwritten cursive script, first line.

日

Handwritten cursive script, second line.

日
日
日

Handwritten cursive script, third line.

Handwritten cursive script, fourth line.

水

道

七月廿三日

Handwritten cursive script on the right page, consisting of several lines of text.

張

資

張資の字は人の名に用ひる事多し

張資の字は人の名に用ひる事多し

張資の字は人の名に用ひる事多し

張資の字は人の名に用ひる事多し

張資の字は人の名に用ひる事多し

張資の字は人の名に用ひる事多し

直

直の字は人の名に用ひる事多し

通

通の字は人の名に用ひる事多し

照

照の字は人の名に用ひる事多し

直

直の字は人の名に用ひる事多し

照

照の字は人の名に用ひる事多し

Handwritten Japanese text in cursive style, likely a poem or prose fragment.

源中納言

Handwritten Japanese text in cursive style, likely a poem or prose fragment.

日守大納言

Handwritten Japanese text in cursive style, likely a poem or prose fragment.

Handwritten Japanese text in cursive style, likely a poem or prose fragment.

奇

Handwritten Japanese text in cursive style, likely a poem or prose fragment.

直

Handwritten Japanese text in cursive style, likely a poem or prose fragment.

照

Handwritten Japanese text in cursive style, likely a poem or prose fragment.

御製 一首

照高院言

二

日守大納言

二

源中納言

一

白河三位

一

雅五郎下

一

資慶

一三

仰五五 五 三首 廿七首

照一 二 二 三十五首

日大 二 二 十九首

鳥一 二 一 十八首

通三 一 一 廿七首

白二 二 一 廿三首

花五 五 五 廿二首

仰十首 照一 鳥一 日十 鳥一 白一 花十

寛文元年六月廿五日

資慶

月と花とあまの山とを帯りた花は表とれてゆか全

照

あてふゆかよとよとこのまのるえよ月と花と

花と鳥とをまのる春の花はまのる花と鳥と

はまのる花と鳥とをまのる春の花はまのる花と鳥と

資考	二毛
伯三位	二毛
日野赤人御色	一毛
中院大納言	一毛
照之御衣	

御製 二首

~~~~~

~~~~~

資

~~~~~

~~~~~

白

~~~~~

弘

~~~~~

海色雪

作製

せうまきうらうらうまきうらうまきうらうまきうらうまき

深山麻

魚

うらうまきうらうまきうらうまきうらうまきうらうまき

鳥

うらうまきうらうまきうらうまきうらうまきうらうまき

うらうまきうらうまき

七月晦日

草花

うらうまきうらうまきうらうまきうらうまきうらうまき

賢

うらうまきうらうまきうらうまきうらうまきうらうまき

魚

うらうまきうらうまきうらうまきうらうまきうらうまき

弘

うらうまきうらうまきうらうまきうらうまきうらうまき

喬

久松の福の山にありてはとてのりてはるるを

久松の福の山にありてはとてのりてはるるを
久松の福の山にありてはとてのりてはるるを

同虫

香

久松の福の山にありてはとてのりてはるるを

照

久松の福の山にありてはとてのりてはるるを

弘

久松の福の山にありてはとてのりてはるるを

久松の福の山にありてはとてのりてはるるを

通大

久松の福の山にありてはとてのりてはるるを

資

久松の福の山にありてはとてのりてはるるを

正

久松の福の山にありてはとてのりてはるるを

日井大油

久松の福の山にありてはとてのりてはるるを

通

通表
白門三位
日野前大納言
照高院官

一七

一七

一七

御製

二首

御製 二首

御製 二首

三

御製 二首

四

御製 二首

五

御製 二首

六

御製 二首

七

八

いかにしては...
いかにしては... (red)

いかにしては...
いかにしては... (red)

いかにしては...
いかにしては... (red)

いかにしては...
いかにしては... (red)

いかにしては...
いかにしては... (red)

いかにしては...
いかにしては... (red)

いかにしては...
いかにしては... (red)

いかにしては...
いかにしては... (red)

いかにしては...
いかにしては... (red)

いかにしては...
いかにしては... (red)

井戸

いかにしては...
いかにしては... (red)

いかにしては...
いかにしては... (red)

いかにしては...
いかにしては... (red)

いかにしては...
いかにしては... (red)

いかにしては...
いかにしては... (red)

いかにしては...
いかにしては... (red)

いかにしては...
いかにしては... (red)

いかにしては...
いかにしては... (red)

いかにしては...
いかにしては... (red)

いかにしては...
いかにしては... (red)

井戸

海

カキハシキヨクニシテ

喬

カキハシキヨクニシテ

弘

カキハシキヨクニシテ

カキハシキヨクニシテ

世

カキハシキヨクニシテ

壽本意

日野大進言

カキハシキヨクニシテ

中流大進言

中流大進言

カキハシキヨクニシテ

喬

カキハシキヨクニシテ

世

カキハシキヨクニシテ

弘

カキハシキヨクニシテ

Handwritten text in a cursive script, likely a list or account. The text is written in a fluid, connected style.

Handwritten text, possibly a section header or a specific entry. It includes some characters that appear to be '株' (share) and '下' (down/under).

Handwritten text, continuing the list or account. The script is consistent with the previous lines.

Handwritten text, possibly a section header or a specific entry. It includes some characters that appear to be '東' (east) and '市' (market).

Handwritten text, continuing the list or account. The script is consistent with the previous lines.

Handwritten text, possibly a section header or a specific entry. It includes the character '市' (market).

凡そよみ書とよむるにまよひあふ光澤あり

月詠林出

井前大納言

いふらんをちのひしよふ長の日もさる林のこぞ

喬

はるかにあぐ神をさるをいふにほふ秋の枝は月

貨

とらげしうらぶらむもあはれ林のこぞはくさる

みづたけのたけきやう神もあはれをさる月も

通

東の月をひらるるうたをこれあひひるた林の枝と

細系残情

資慶

と松のちまきくは残る花の枝あぬまを

よけても木とまきしとつるを尾かへしてゆるは

喬

ふせと様れんまをさるるのこぞはあはれん

通

いふははらうらやそを松の枝は林のまをさる

弘

を察ししをいふは林のみれはるにけり

又陽映治 資考

法政治しむ又いふは

あはれは入るは

奇

あはれは入るは

あはれは入るは

あはれは入るは

あはれは入るは

あはれは入るは

沸製 四首

浪人絶之 一毛

見舟あはれ 二毛

伯三位 二毛

資考 二毛

清書伯三位也

九月廿八日

垣根権

ふーともあはれ成れくおらめ日教はらふ花はほ

資

おふと一花のさるん方の根垣にいらぬ根はあ

通

おふと一花のさるん方の根垣にいらぬ根はあ

日井前大納言

おふと一花のさるん方の根垣にいらぬ根はあ

喬

不七九二五九

音んんかたねあふららる根とあふととて美根権

大納言

喬

美のふと一花のさるん方の根垣にいらぬ根はあ

弘

おふと一花のさるん方の根垣にいらぬ根はあ

通

おふと一花のさるん方の根垣にいらぬ根はあ

資

おふと一花のさるん方の根垣にいらぬ根はあ

法は郎らうのの身みをを入いるる日ひ野の大だい納な言ごん

夜よ接けつ女にょ

日ひ野の大だい納な言ごん

心このの井いのの身みをを入いるる日ひ野の大だい納な言ごん

街まちのの石いしのの身みをを入いるる日ひ野の大だい納な言ごん

日ひ野の大だい納な言ごん

衣えはは入いるる日ひ野の大だい納な言ごん

酒さけ

心このの身みをを入いるる日ひ野の大だい納な言ごん

奇き

心このの身みをを入いるる日ひ野の大だい納な言ごん

夜よ接けつ女にょ

心このの身みをを入いるる日ひ野の大だい納な言ごん

日ひ野の大だい納な言ごん

心このの身みをを入いるる日ひ野の大だい納な言ごん

酒さけ

心このの身みをを入いるる日ひ野の大だい納な言ごん

日ひ野の大だい納な言ごん

心このの身みをを入いるる日ひ野の大だい納な言ごん

伯はく三さん位い

引物...
...

隔海意

井前大納言

喬

...

...

通天

井前大納言

...

...

御製 日首

日野大納言

...

日野大納言

...

伯三位

...

通天

...

花のまゝ
こぼるる又様々
なすうらな

うらな

あはれ
月夜らのまゝなつかしき

あはれ
長とまじりてあそび

あはれ
一はゆかきとせ

あはれ
あはれ

あはれ
あはれ

あはれ
あはれ

あはれ
あはれ

あはれ
あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

十一月廿日

善心齋

伯之位

いりのえんもはるる青のえんもはるる
張とこの張あて

式

くわりのあいにいり又張のあていり
入相のあていりも初張のあていり
中院大納言

同

あていりもいりもあていりもあていりもあていりも

いりのあていりもいりもあていりもあていりもあていりも

夏月涼

式

待ていりもいりもあていりもあていりもあていりも

中院大納言

あていりもいりもあていりもあていりもあていりも

いりのあていりもいりもあていりもあていりもあていりも

弘賢

いりのあていりもいりもあていりもあていりもあていりも

伯之位

あやうし 結句のてし

世に於ては... 流し... 世に於ては...

御製 一首

式部卿 二首

中院大納言 一首

伯三位 一首

弘賢 二首

今も... 世に於ては... 今も...

寄水難 中院大納言

あふ... 世に於ては... あふ...

世に於ては...

流し... 世に於ては... 流し...

世に於ては... 流し... 世に於ては...

弘

世に於ては... 流し... 世に於ては...

伯

成
今
今
今

酒

今
今
今
今

野
野

鳥

今
今
今
今

成

今
今
今
今

可

今
今
今
今

鳥

今
今
今
今

酒

今
今
今
今

白

十



或

花のうらみはあはれなる

舞臺草

うらみはあはれなる花のうらみはあはれなる

或

花のうらみはあはれなる

白

花のうらみはあはれなる

白

花のうらみはあはれなる

海

花のうらみはあはれなる

日野人納言

花のうらみはあはれなる

風書梅

花のうらみはあはれなる

白

花のうらみはあはれなる

日野人納言

花のうらみはあはれなる

白井納言

白井納言の御書

通

信吉の御書

白

信吉の御書

白

信吉の御書

白井納言

信吉の御書

名刺

信吉の御書

白

信吉の御書

通

信吉の御書

白

信吉の御書

白

信吉の御書

佛 二 二 三 五 五 一 一 惣十七

照 無 一 一 惣二

鳥 二 二 三 二 二 惣十五

日 一 一 二 三 三 惣十七

白 二 一 二 一 三 惣十

式 一 一 一 一 一 惣五

通 一 一 一 一 一 一 惣七

井上十右衛門
一ノノ

寛文二年二月七日

海老蔵

讀みかた

わしは... 白

昔の... 白

此の... 鳥

鳥

Handwritten cursive text, likely a name or title.

通

Handwritten cursive text.

已疎書

日野大酒之

Handwritten cursive text.

Handwritten cursive text.

推

Handwritten cursive text.

行

Handwritten cursive text.

通

Handwritten cursive text.

四

Handwritten cursive text.

待

同

Handwritten cursive text.

武部

Handwritten cursive text.

通

くしふらち中へたもる人あふむるあはれ

あのかこもひよりたふらむるあはれ

あのかこもひよりたふらむるあはれ

あのかこもひよりたふらむるあはれ

鳥

浄契 一首

式部卿文 一首

日丹納言 一首

源大納言 一首

伯三位 一首

弘賢 一首

清書通文

同七日 當座御會

春梅

梅はれり入る世は社やのたれあそびも人ごみ

春雨

雅喬

嘆かたやもみよのたれももては花にらひて

帰鳥

照唐

らふそくをくまのらるるをてぬる

足花

澄豊

あはれをたれ一木のまのりては春をふり

當春

照唐

はなはれのちりもけりては花はれ

思恋

資廣

はなはれをたれもけりては花はれ

恨恋

通天

かたはれも我もみよのたれも

山家

時豊

ありては春をたれもけりては花はれ

海路

資照

波ももみよのたれもけりては花はれ

祝言

弘資

はなはれも我もみよのたれも

四月七日

遠山杉樹

日野大納言

花の宿も秋の宿のまじりに花

弘

なれてくさく松よしのまじりて

夏こそ枝のまじりて秋のまじりて
秋のまじりて
秋の中に花も

通

金さしうらむ花も夏も秋も

白

心もさしうらむ花も秋のまじりて

秋のまじりて

武

心もさしうらむ花も秋のまじりて

曉岡邦云

日

心もさしうらむ花も秋のまじりて

心もさしうらむ花も秋のまじりて

中院大納言

心もさしうらむ花も秋のまじりて

雅喬

郭公の御書に云くは

式

一、此の御書に云くは

為

此の御書に云くは

後醍醐天皇

今も此の御書に云くは

推喬

此の御書に云くは

為

此の御書に云くは

日新天皇御書

此の御書に云くは

中院大納言

此の御書に云くは

式

此の御書に云くは

御製

二首

式部卿

二毛

日舟人

一毛

中流人

二毛

日野人

一毛

雅喬

二毛

三毛
尾下
手

五十首

立春

弘資

まのしやの... 春

何

... 春

春

... 春

行

... 春

野

まじりていづれもあはれなる花のうらみ

梅凡

かげしき花もよもぎのうらみ

柳花

にまじりていづれもあはれなる花のうらみ

春白

あふまじりていづれもあはれなる花のうらみ

春月

うつくしき花もよもぎのうらみ

帰鳥

あふまじりていづれもあはれなる花のうらみ

禁中花

あふまじりていづれもあはれなる花のうらみ

山花

あふまじりていづれもあはれなる花のうらみ

花上花

あふまじりていづれもあはれなる花のうらみ

里歌

あふまじりていづれもあはれなる花のうらみ

池石

吹く

昔の世に... 吹く

卯花

又月... 卯花

卯花

おの... 卯花

卯花

は... 卯花

卯花

... 卯花

卯花

... 卯花

卯花

... 卯花

卯花

... 卯花

卯花

... 卯花

卯花

... 卯花

卯花

依見の字に...

とら... 依見の字に...

支持衣

秋... 依見の字に...

裁平

入... 依見の字に...

秋お

秋... 依見の字に...

松岡お

この... 依見の字に...

書林

ら... 依見の字に...

寝見時

秋... 依見の字に...

云

そ... 依見の字に...

枯野

不... 依見の字に...

そ

し... 依見の字に...

書林

秋高もさきさきと人春あきとてなほてゆき

禁中花

色に花のさきさきと人春あきとてなほてゆき

山舞

心くさきとて風とあはれなる花の色

座落

清くもさきとて花のさきとてあはれなる花の色

里秋

里のさきとて花のさきとてあはれなる花の色

池有

山重

白くもさきとて花のさきとてあはれなる花の色

和花似月 秋重

まもるもさきとて花のさきとてあはれなる花の色

和月秋と 又秋花

あはれもさきとて花のさきとてあはれなる花の色

雲何計也

雲今人の花のさきとてあはれなる花の色

心大月也

心大月也とて花のさきとてあはれなる花の色

節夏重

百葉れうたのなとひう福うら麻の長十ふ時ん

又虫

候先するあまこたれぬたよのたれ松を松虫の奴

音中初

音のうらばくまをて一はうたやうま初の色

山月

とよのうらぶくをくならまに葉の音うらま清の

山月

きたとる浦のうらまもあまをうらまをうらまをうらまを

水戸

山月

月もうらまをうらまをうらまをうらまをうらまを

岡持衣

はらばらあまうらまをうらまをうらまをうらまを

裁也

うのたをうらまをうらまをうらまをうらまを

林お

厚もくまの厚たをうらまをうらまをうらまを

松のねまをうらまをうらまをうらまを

あまのうらまをうらまをうらまをうらまを

書林

立春

雪はくも雲のりくくくくくくくくくくくくくくくく

海もさか

雪の来と春のいろくくくくくくくくくくくくくくくく

春雪

さらさらと来り来りくくくくくくくくくくくくくくくく

竹雪

おこしおこしおこしおこしおこしおこしおこしおこし

野あそ

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

梅風

はるはる梅ももももももももももももももももも

柳風

ふはふはふはふはふはふはふはふはふはふはふはふは

春白

なななななななななななななななななななななな

春月

あはあはあはあはあはあはあはあはあはあはあはあは

ぬき

井原屋

今更なる御座り申すに
御座り申すに

御座り申すに

御座り申すに

御座り申すに
御座り申すに
御座り申すに
御座り申すに

御座り申すに

御座り申すに

御座り申すに
御座り申すに

御座り申すに

御座り申すに
御座り申すに

御座り申すに

御座り申すに

御座り申すに

御座り申すに

御座り申すに

御座り申すに

御座り申すに

御座り申すに

とまらぬ草のまじりておのれをいかにせんか

石堂 北堂

うき世のふらふらとておのれをいかにせんか

夏曉月

秋のふらふらとておのれをいかにせんか

又立

風をいかにせんかおのれをいかにせんか

水色納涼 おのれをいかにせんか

秋のふらふらとておのれをいかにせんか

杜蝶

又まじりておのれをいかにせんか

初秋物 廿二年の秋

力のいかにせんかおのれをいかにせんか

七夕 北堂

織女をいかにせんかおのれをいかにせんか

中森島

あはれんおのれをいかにせんか

夜森凡

秋のふらふらとておのれをいかにせんか

秋麻

をまらぬくもはのえ方いしの峰らといふあやう
寝えけむ

志くしゆくもともれ山はふきまら花の友はん
舌はあま

吹くすしにけりもそちまのま紫にけりあめ
枯野

かもししたのま様もまのQとらむいおれのみま
冬月

いほはまもまはくおのいしりいん
豊明前會

りるまは代にらたま酒好まはしりいんかあうま
湖あま

こはまうたははまかまきり十のまはひりるん
田水

高あましりそらまのま氷よる山田のま
書友月

あつしりまはの月次まそら地らる松のあれま
雪胡

よもまらららららららららららららららららら
柔暮

あまのりやうにほくし摘りとてきんぎょくをたのむ

上下巻に書付百四拾有八枚

干時享保五年庚子季春上澣



武陽城下晤吟子七十一歳

書家之

